

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

古き良き伝統を継承・発展させながら、地域に根ざし、地域に愛される普通科高校として、その「山高スピリッツ」を受け継ぎ、多様化が進む社会において他者を尊重することのできる、自己肯定感の高い、感受性豊かな人間を育成する。

・主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を図ることで基礎学力の定着につながる学習習慣を確立し、一人ひとりの進路目標の達成につながる教育をめざす。
・盛んな学校行事や部活動を通して、目標達成に向けた生徒主体の運営をねばり強く支援し、挑戦する力の育成を図る。
・主体的に他者と協働し、バランス感覚に長けた生徒の育成に取り組む。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
- ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。
- イ 教職員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。
- ウ 教職員の ICT 活用スキルを向上させ、1 人 1 台端末を効果的に活用した授業改善を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度、理解度、集中度の肯定率平均を、令和 10 年度には 90%以上（R 5：87. 5%, R 6：86. 7%, R 7：85. 5%）にする。
- (2) グローバル社会に対応できる人材育成の観点より、将来への夢や志を育み将来につながる課題解決能力を探究させる。
- ア 探究をはじめ、あらゆる教育活動における言語活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。
- イ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを通じ、英語に慣れ親しみ英語検定等にチャレンジする意欲を持たせる。
- ※英語検定準 2 級以上相当の受験者数を、令和 10 年度には 150 名以上とする。（R 5：110 名, R 6：131 名, R 7：148 名）
- (3) 満足度の高い進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。
- ア 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における家庭学習度の肯定率を、令和 10 年度には 70%以上（R 5：36. 5%, R 6：61. 7%, R 7：53. 4%）にする。
- イ 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、生徒一人ひとりの多様な進路目標の実現に向かって自主的に努力する生徒を育成する。
- ウ 生徒個々の目標や能力に応じた進路相談や講習体制の充実により、満足度の高い進路実現に取り組む。
- ※令和 10 年度までの 3 年間で、国公立大学 3 名（R 5：1 名, R 6：1 名, R 7： 名）・難関私立大学 30 名以上（R 5：19 名, R 6：26 名, R 7： 名）の合格（現浪合わせて）をめざす。
- 2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成
- (1) 生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を充実させるとともに、人権や多様性を尊重する教育を推進する。
- ア 基本的生活習慣の確立のうえに規範意識の高い自立した生徒集団づくりをめざす。
- イ 専門人材と連携した支援・教育相談体制の充実に取り組む。
- ウ 人権教育計画に基づき、自尊感情を育み他者を尊重する態度を育成する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度の平均を 90%以上（R 5：87. 5%, R 6：90. 0%, R 7：92. 1%）で維持する。
- (2) 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で他者と調和しながら活動できる能力を育成する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を 92%以上（R 5：93. 1%, R 6：95. 1%, R 7：94. 3%）で維持する。
- (3) 高大・企業連携を盛り込んだ 3 年間のキャリアプランを確立させ、外部人材等も積極的に活用して自己発見・自己実現に向けたキャリア教育の充実を図る。
- (4) 生徒が安全安心に学ぶことができるよう、施設設備の充実・改善に努める。
- 3 広報活動の充実による魅力発信の促進と地域に開かれた学校づくり
- (1) web サイトや公式 SNS をはじめ、学校説明会・中学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を積極的に展開する。
- (2) 支援学校、近隣のこども園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動を通じて、共生社会の担い手となる生徒を育成する。
- 4 労働安全衛生管理体制の充実
- (1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する
- ア 校務運営について業務の見直しや ICT を用いて効率化を図る。
- イ 部活動方針の遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。
- ウ ゆとり週間等の取組を通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業改善への取組み	(1)	(1)	
	ア 「習熟度別・少人数展開授業」による「わかる授業」の推進	ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、「数学」「英語」(第 1 学年) の習熟度別・少人数展開授業の充実を図る。	ア・生徒による授業アンケート、授業進度・難易度の 2 教科平均肯定率 85%以上を維持する[85. 9%]	
	イ 教職員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用した「授業力の向上」	イ・授業改革委員会が主体となり年 2 回の授業公開週間を定め、教科を超えた相互授業見学・相互評価を促進する。 ・生徒による授業アンケート (年 2 回) 結果による分析と課題把握を行い、各教科へのフィードバックし授業改善を進める。	イ・相互の授業見学を教職員 1 人につき、年間 2 回以上の実施を維持する[2 回] ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度、理解度、集中度の肯定率平均 90%以上[85. 5%]	
	ウ 教職員の ICT 活用スキルの向上と 1 人 1 台端末の効果的な活用	ウ・研修の活用や日常の業務の ICT 化を推進することで教職員の ICT 活用スキルの向上を図る。 ・教科・科目の特性や授業内容に応じた適切な 1 人 1 台端末の活用を推進する。	ウ・ICT 活用に係る教職員研修 2 回以上 ・生徒向け学校教育自己診断における 1 人 1 台端末の肯定率 85%以上を維持する [85. 5%]	
	(2) グローバル社会に対応できる人材育成	(2)	(2)	
	ア 言語活動を通じた生徒の将来を考える機会・環境づくり	ア・「総合的な探究の時間」の充実 ・図書室の環境整備、活用の促進と読書の奨励。	ア・第 1 ・ 2 学年の「総合的な探究の時間」の満足度を 80%以上にする ・図書室の環境整備を 2 学期末までに完了させる。 ・貸出し図書数 5000 冊以上[4004 冊]	
	イ 英語検定等にチャレンジする意欲を持たせる	イ・Graded Readers 蔵書数の充実を図り、取組みをさらに充実させるとともに英語検定等にチャレンジさせる。	・英語検定準 2 級以上相当の受験者数を、130 名以上を維持する[148 名]	
	(3) 進路実現のためのさらなる学力向上	(3)	(3)	
	ア 成績中位者・成績不振者層の指導充実	ア・各教科・学年が連携し宿題や予習・復習等の課題を効果的に設定することで、家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断における平日家庭学習時間ゼロの生徒を 25%以下にする[33. 9%]	
	イ 多様な進路目標の実現に向け自主的に努力する生徒の育成	イ、ウ ・進路指導部、各教科、学年の組織的連携に加え、教育産業等の活用も検討しつつ、放課後や長期休業期間の講習体制の充実を図る。	イ、ウ ・「学力生活実態調査」の B ランク以上が全体の 55%以上[44. 2%] ・共通テスト出願者 70 名以上[62 名]	
	ウ 生徒個々の目標や能力に応じた進路相談や講習体制の充実	・大学進学希望者を 2 月・ 3 月入試まで主体的に学習させる。(3 年生 2 月講習の実施)	・国公立大合格者 3 名以上[1 名] ・関関同立合格者 (現浪合計) 25 名以上[21 名]	
2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成	(1) 規範意識の醸成と生徒支援体制の充実、人権や多様性を尊重する教育の推進	(1)	(1)	
	ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の高い自立した集団づくり	ア・生徒の自主・自律および規範意識を育む生徒指導の継続。 ・カウンセリングマインドを生かした規律指導を、家庭との連携を密にしつつ、教職員全体で組織的に実践する。	ア・生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度 85%以上にする[80. 7%]	
	イ 専門人材と連携した支援・教育相談体制の充実	イ・高校生活支援カードの活用や、SC や SSW および外部機関との連携等により生徒理解を深め、個々の生徒を支援する体制の充実を図る。	イ・支援・教育相談委員会を月 1 回以上開催する[15 回] ・生徒向け学校教育自己診断における気軽	

府立山本高等学校

	ウ 人権教育計画に基づき、自尊感情を育み他者を尊重する態度を育成する (2) 集団の中で他者と調和しながら活動できる能力の育成 (3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育の充実 (4) 生徒が安全安心に学ぶことができるよう、施設設備の充実・改善に努める。	ウ・人権教育計画に基づき、人権教育委員会が中心となって人権教育を計画・推進する。 ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向けた「いじめ防止対策委員会」を中心とした組織体制の確立。 (2) ・生徒会執行部の活動の活性化を図り、生徒会行事等を通じて生徒の自治意識を育てる。 ・部活動の充実と環境整備を図り、生徒の自己有用感を育みコミュニケーション能力を高める。 (3) ・各学年に応じた適切な進路情報を定期的に発信し、自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。 ・進路選択のため、生徒のニーズに応じた見学会や説明会を開催する。 ・同窓会の協力のもと学年ごとに「先輩に学ぶ」企画を実施する。 (4) ・定期的な安全点検に加え、生徒・教職員へのアンケートを実施して実態把握に努める。特に南館トイレ、食堂及び柔剣道場を中心に創立 100 周年事業等も活用しながら校内施設の充実・改善に努める。	に相談できる担任以外の先生の実在の肯定率を 70%以上にする[67. 8%] ウ・生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さ、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度の肯定率平均 90%以上を維持する[92. 1%] ・生徒向け学校教育自己診断におけるいじめ対応への対応に関する肯定率 93%以上を維持する[94. 7%] (2) ・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度 93%以上を維持する。[94. 3%] ・生徒向け学校教育自己診断における部活動満足度を 80%以上にする[77. 7%] (3) ・生徒向け学校教育自己診断における進路情報満足度 95%以上を維持[95. 0%] ・生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会肯定率 90%以上を維持[92. 4%] (4) ・生徒向け学校教育自己診断における施設設備関係の満足度平均 90%以上を維持[92. 0%] ・食堂及び柔剣道場の整備方針を 2 学期までに確定させる	
3 広報活動の充実と地域に開かれた学校づくり	(1) 教育活動の情報発信の積極的な展開 (2) 地域交流の拡大と深化による生徒育成の取組み	(1) ・Web サイトと公式 SNS を効果的に連携させ、定期的かつ適切な情報発信を行う。 ・本校のスクールミッションが中学生、保護者に明確に伝わるよう中学や学習塾訪問、学校説明会等を通じて、積極的・効果的な情報発信に努める。 (2) ・生徒会、部活動、授業などを通じた近隣の他校種間連携の推進。 ・地域や諸施設との交流やボランティア活動への参加をさらに積極的に実施する。	(1) ・保護者向け学校教育自己診断「ホームページは役立っている」肯定率を 75%以上にする[72. 4%] ・「やまこうニュース」更新週 2 回以上 ・SNS 更新週 1 回以上、フォロワー数 1500 名以上 ・学校説明会参加者 1500 名以上[2603 名]、外部団体主催の学校説明会参加 4 回以上を維持[4 回] ・中学校からの訪問要請対応 100%[100%] ・広報関係の中学校訪問 15 校以上 [31 校]、同学習塾訪問 30 校以上 [23 校] (2) ・生徒向け学校教育自己診断「近隣の学校との交流の多さ肯定率 50%[54. 0%]、同「地域との関わりの多さ」肯定率 50%[52. 4%]を維持する	
4 労働安全衛生管理体制の充実	(1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する	ア・ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 イ・部活動の年間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする。 ウ・ゆとり週間・月間の徹底に取組み年休取得を促進する。教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。	ア・年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにする ・ストレスチェック総合健康リスク 95 未満を維持[88]、同高ストレス判定者率 10% 未満にする[11. 8%] イ・年間時間外在校等時間が 360 時間を超える人数を前年度よりも減少させる ウ・年次有給休暇の平均取得日数を 16 日以上にする	